

1 題材名 打楽器でリズムアンサンブル

2 本題材の目標

- (1) 打楽器の音の響きやそれらの組み合わせが生み出すよさや面白さを理解し、思いや意図に合った表現をするために必要な音色や音楽の縦と横の関係をを用いて、音楽をつくる技術を身に付ける。  
(知識及び技能)
- (2) 打楽器の音やリズム、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識したリズムアンサンブルをつくるかについて思いや意図をもつ。  
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 打楽器の音色の組み合わせやリズムの重ね方に興味・関心をもち、音色や音楽の縦と横の関係を生かして主体的にリズムアンサンブルをつくる学習に取り組み、音楽づくりに親しむ。  
(学びに向かう力、人間性等)

3 指導事項との関連

A 表現 (3) ア(イ), イ(ア), ウ(イ)

本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素  
音色, リズム, 音楽の縦と横との関係

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①知：打楽器の音の響きやそれらの組み合わせが生み出すよさや面白さを理解している。 ②技：思いや意図に合った表現をするために必要な音色や音楽の縦と横の関係をを用いて、音楽をつくる技術を身に付けてリズムアンサンブルをつくっている。	思①：打楽器の音やリズム、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識したリズムアンサンブルをつくるかについて思いや意図をもっている。	態①：打楽器の音色の組み合わせやリズムの重ね方に興味・関心をもち、音色や音楽の縦と横の関係を生かして主体的にリズムアンサンブルをつくる学習に取り組もうとしている。

5 題材について

児童はつくりたいイメージはもっているものの、それを音で表したり、記譜したり、楽器で演奏したりすることへの困難さを感じている児童も多い(表1)。これには、音の重ね方や組み合わせなどを論理的に考えながらつくるという経験の不足や、楽器を使って再現することの苦手意識があるためと考えた。

**表1 音楽づくりに関する児童の意識調査**

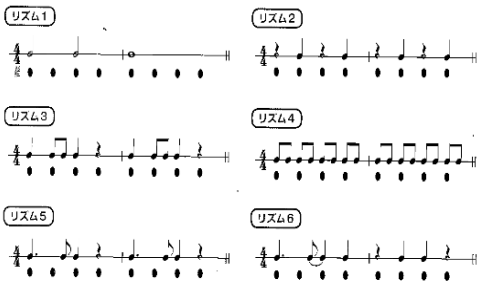
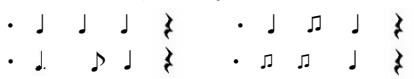
(R2.\*.\*\*実施 第5学年\*組38人)

①進んで音楽の学習に取り組んでいる。	はい 人
②音楽づくりに興味がある。	はい 人
③音楽づくりで大変なこと (選択式複数回答可)	
楽譜や音符の読み書きが難しい。	<input type="checkbox"/> 人
思った通りにうまくつけれない。	<input type="checkbox"/> 人
うまく演奏できない。	<input type="checkbox"/> 人
どんな音楽をつくれればよいのか分からない。	<input type="checkbox"/> 人

そこで、タブレット型端末を1人1台使用し、プログラミング学習ソフト「Scratch」を用いて音楽づくりを行う。始めは、リズム譜を提示し、音符の長さを確認してリズム打ちをしたり、実際に楽器を鳴らして、各楽器の音の特徴やリズムに合った打ち方を確かめたりする。その活動を十分行ったうえで、リズム・パターンや楽器を組み合わせる場面プログラミング学習ソフト「Scratch」を用いる。イメージしたものに近付けるためにリズム・パターンを選ぶ、リズム・パターンを重ねてみる、楽器、速さ、強弱を変更するなどの活動を行う。何度も変更することが可能なら、再生ボタンを押せば、その場で音を確認しながらつくることができ、演奏に苦手意識をもつ児童も無理なく取り組むことが可能になる。更にイメージに合った演奏になっているかを確認するために、相互鑑賞の時間を設ける。相互にアドバイスをし合うことによって、イメージした音楽にするためにはどうすればよいかを工夫することが可能になる。アドバイスを基に改良・修正を加えていく過程を繰り返すことで、音色や音楽の縦と横の関係に着目しながらイメージする音楽をつくることに結び付けていく。

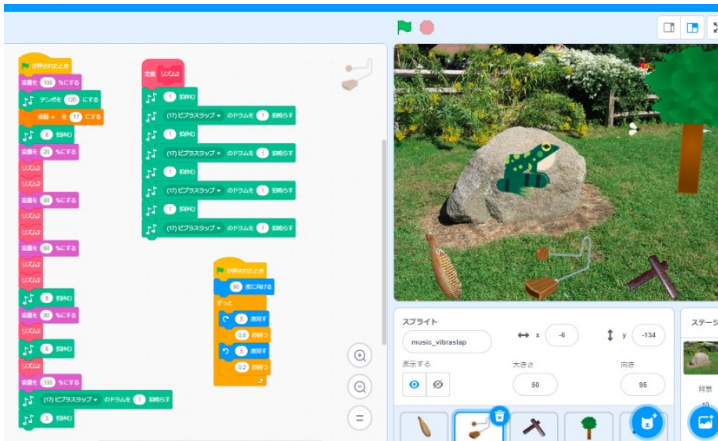
## 6 題材の指導計画（4時間扱い）

次	時	学習内容・活動	知	技	思	態	評価方法・留意点等
1	1	<p>目標：楽器の材質や音の響きに気を付けながら、音の特徴とリズムを確かめる。</p> <p>リズムに合った楽器の打ち方を見つけよう。</p> <p>1リズムのイメージと音符の長さを確認し、提示した3つのリズムを打つ。            ① ● ● 大また歩き、ゾウ            ② ♪ ♪ ♪ ♪ 行進 一個飛ばし            ③ ♪ ♪ ♪ ♪ かけ足 追いかけてこ</p> <p>2一つの楽器で3つのリズムを打って、楽器の音色を確かめ、リズムに合った鳴らし方を見つける。</p> <p>3音の特徴に気を付け、どんな演奏にしたいかを話し合っ、グループごとにアンサンブルに使う楽器を選ぶ。</p> <p>4グループごとに選んだ楽器で①②③のリズムを重ねて演奏し、響きの組み合わせを確かめる。</p> <p>5まとめと振り返りを行う。</p> <p>音符の音の長さとおびきの長さ、高さ、音色に気を付けて、イメージに合った打ち方をするとよい。</p>				○	<p>思①：イメージが思い付かない児童には、くり返し試すことで、楽器の音とリズムからどんな演奏にしたいか、児童の考えを引き出していく。【発言・行動観察】</p> <p>○ 態①：リズムを打ちにくい児童やリズムがずれやすい児童には、リズムに言葉を付けて覚えやすくし、楽しみながらリズム打ちに取り組めるようにする。 【行動観察】</p>
2	2	<p>目標：リズムと楽器を選び、「Scratch」でリズムアンサンブルをつくる。</p> <p>好きなリズムと楽器を選び、「Scratch」でリズムアンサンブルをつくらう。</p>	○				<p>○ ①知：リズム・パターンを選べない児童には、まずは順番に当てはめていくことでリズムアンサンブルをつくれるようにする。【観察】</p> <p>○ 態①：リズムを重ねた時の音色や音の重なり方に集中できるように、</p>

<p>1 提示した6つのリズムを打つ。</p>  <p>2 リズムを3つ選び、11回繰り返すよう「Scratch」に入力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムや楽器を変更したり、休む箇所をつくったりして、音を確認する。</li> <li>・つくった音楽を相互鑑賞する。</li> <li>・アドバイスカードに記入し合い、次回の作品づくりに生かす。</li> </ul> <p>3 本時の振り返りを行う。</p>	◎		<p>「Scratch」は、あらかじめ6つのリズム・パターンをプログラミングしたものを使用するようにする。 【行動観察】</p> <p>①知【ワークシート・作品】</p>
<p>3 目標：つくりたいイメージに合う音楽にするには、どのような音楽の仕組みに気を付ければよいかを考えて、リズムアンサンブルをつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>反復、呼びかけとこたえ、音の重なり方をつかって、音楽をつくろう。</p> </div> <p>1 音楽の仕組みを生かして音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提示したリズムアンサンブルの例を聴く。</li> <li>・音楽の仕組みについて知る。 (反復、呼びかけとこたえ、音の重なり方)</li> <li>・「Scratch」と作品カードを使って、リズムアンサンブルをつくる。</li> <li>・11回(22小節)分をつくって終止する。 (終止は、 ♩ - )</li> </ul> <p>2 作品を相互鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイスカードに記入し、次回の作品づくりに生かす。</li> </ul> <p>3 まとめと振り返りを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「反復」、「呼びかけとこたえ」、「音の重なり方」などの音楽の仕組みを生かすと、イメージに合ったリズムアンサンブルをつくるができる。</p> </div>	◎	○	<p>思①：イメージが思い付かない児童には、例を示したり重ねる回数を減らしたりするよう提案をすることでつくれるようにする。 【観察】</p> <p>②技：「Scratch」の特徴を生かし、リズム、楽器、速さを変えて様々なパターンを試してみるよう、助言する。 【行動観察、ワークシート】</p> <p>思①【ワークシート・作品】</p>
<p>4 目標：「Scratch」を使って自分のリズムアンサンブルを完成する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「Scratch」を使って、自分だけのリズムアンサンブルをつくろう。</p> </div> <p>1 アンサンブルをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に作った作品を基にして、音色や音の重なり方に気を付け、リズム、楽器、速さ、強弱などを工夫してリズムアンサンブルをつくる。</li> </ul> <p>2 終わり方を工夫する。</p> 	◎	○	<p>②技：どのように工夫をしたらよいか分からない児童には、反復、問いとこたえ、音を増やしたり減らしたりしていくなどの例を提示し、イメージに合った音楽をつくるができるようにする。 【観察】</p>

	<p>3 相互鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作品カードをタブレットの前に置き、相互鑑賞するし、他の児童の作品を聴いた際は、感想を感想カードに記入する。</li> </ul> <p>4 まとめと振り返りを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>音色や音の重なり方に気を付けると、自分のイメージをリズムアンサンブルに表現することができる。</p> </div>		◎		<p>②技【ワークシート・作品】</p> <p>態①【観察・ワークシート】</p>
--	---	--	---	--	---

### 児童の作品例



「自然の中」で虫たちが鳴いている場面を表現しようとしている。虫たちの鳴き声のようにするために、ギロ、ビブラスラップ、クラベスなどの木でできている楽器を使い、音量をだんだん上げて虫たちの声が徐々に大きくなっていくイメージになるように工夫するなど、音色や音の重ね方に注目して音楽をつくっている。